

会社名 公立八鹿病院
お名前 M. Y さん

所属 栄養管理科（管理栄養士）
出身 大阪樟蔭女子大学
（平成22年学芸学部食物栄養学科卒業）

病院の概要

地域に暮らす人々と共に心あたかな医療を進めたい。



～ 基本理念 ～

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。』

所在地：兵庫県養父市八鹿町八鹿1878番地1

開設者：公立八鹿病院組合（構成市町：養父市、香美町（村岡区・小代区）の1市1町）

診療科目：内科・総合診療科・呼吸器科・循環器科・精神神経科・脳神経内科・脳神経外科
胃腸科・小児科・外科・緩和ケア科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科
眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・歯科

病床数：一般／358床、療養／55床、結核／7床、合計／420床

仕事の内容



◇どんな仕事

仕事の業務は多種類です。直営の病院ですので、現場(厨房)業務もあり、私の場合、月の半分はこの業務です。その他、入院(病棟)担当・外来担当、現場責任者、献立・発注、回診、透析センター等…たくさんの事を勉強させてもらっています。最初は覚える事が多く、今でも大変ですが、現場も事務所も病棟も全てを経験できるので毎日とても勉強になります。入院(病棟)担当、外来担当の日は主に栄養指導と栄養アセスメント業務、回診等で大学時代の授業が本当に役立っています。管理栄養士10名、栄養士3名、調理師11名、調理員5名、事務員1名、計29名が勤務しており、注入食を含め1日約920食を提供しています。

◇仕事の流れ（一日の動き）

- ・現場…早番業務：朝5時～ 朝食準備開始から配膳、昼食配膳、下膳まで
遅番業務：朝10時～ 当日夕食と翌日昼食の下処理、夕食準備から配膳、下膳まで
- ・管理栄養士業務：依頼があれば予約時間に栄養指導に行き、その他は主に午前中のうちにアセスメント対象者の情報収集（検査データ、摂取状況、使用薬剤、点滴等）→昼食時に訪問→その後カルテや管理計画書への記録、食事変更等を行い、今後のケアプラン決定という流れです。

当院の緩和ケア病棟では、その日の昼・夕に食べたい物を毎日、当日の朝、管理栄養士が病室まで一人ひとり聞きに行き、全て個人対応の特別メニューを用意します。その準備、提供も決められた時間内でこなすのは大変ですが、現場の協力のおかげでできています。

仕事のやりがい（嬉しかったこと、つらかったこと）

1年前、私が初めて入院担当の勤務になり、ベッドサイド訪問をした患者さんは、抗ガン剤の副作用で食事が全く摂取できない状況でした。本人・ナースと相談しながら、何か少しでも食べられる物はないかと、出来る限りの対応をしました。その後しばらくは変わらずでしたが、少しずつ摂取量が増えていき、再度私が訪問した際には笑顔で迎えて下さいました。「おかげ様で全部食べられるようになったよ。わがまま聞いてくれて本当にありがとう。しっかり食べてこれから体力をつけるわ。ありがとう！」と、空になったお皿を嬉しそうに見せてくれました。



私にとっても初めての事だったので、今でも忘れられません。食事で病気を治すことはできませんが、前向きになるきっかけを作れたことが嬉しかったです。

この病院を選んだ理由

地元で数少ない総合病院で、とても地域に密着したあたたかい病院です。私はこの病院で生まれ、高校を卒業し大阪に引っ越すまでは何かとお世話になっていた病院。病床数420床、老健が併設されており、在宅訪問栄養も行っていて、透析センター、緩和ケア病棟に力を入れていること、直営であることから、たくさんの事が学べると思ったからです。よく知っている病院であり、大学卒業後はまず総合病院で経験を積むと決めていたので、当院を選びました。

この仕事に必要なもの（学生と社会人の違いなど）

まずはコミュニケーション能力、次に知識だと思います。管理栄養士が病棟に上り、仕事をするということは、必然的に自分の部署だけでなく、他の職種のスタッフはもちろん、患者さん本人やそのご家族等々、たくさんの人と関わる事になります。自分の考え、現在の課題、今後のプランを話し合っていくうえで、コミュニケーション能力は欠かせません。今、学生の間には色々な年代の色々な考えの人と話をする機会を持つ事は大切だと思います。そして、中身のあつ話し合いができ、信頼を得るためには知識が必要です。自分の専門分野だけでなく、幅広く勉強しておく必要があると思います。

今後の目標

まだ就職して1年半、管理栄養士として栄養管理業務に携わるようになって1年という未熟者なので、大きな目標よりもまず目の前の目標として、透析センターでの栄養管理・指導、ターミナル期の栄養管理で一人前になること、NST（栄養サポートチーム）への参加を目標に頑張っています。そして、これからの管理栄養士は、もっともっと外に出ていく必要があると私は思っています。そのために、病院からも患者さんからももっと信頼され、頼りにしてもらえるように、管理栄養士として栄養学はもちろん、医学、薬学、介護、リハビリ等々、必要な知識を身に付け、広い視野を持って、総合病院ならではの経験を積んでいけたらと考えています。

